

ご挨拶

医療法人はごろも会 仲本病院 呼吸器内科・一般内科 副院長 玉城 仁



那覇市医師会の皆様、はじめまして。2014年10月より、那覇市古島にあります「医療法人はごろも会 仲本病院」に勤務しています玉城仁でございます。1994年に琉球大学を卒業し、はや20年が経過しました。卒後4年間、沖縄県立中部病院で臨床研修を行ない、計18年間、県立病院で勤務、残りの2年間はうるま市のすながわ内科クリニックに勤務していました。

県立病院時代は呼吸器内科医として、主に気管支喘息やCOPD、間質性肺炎の急性増悪、慢性呼吸不全、そして肺癌

の患者を診療させていただきました。県立病院は、救急センターを有しているため急性期患者が多く、外来で喘息やCOPD、生活習慣病の患者に、安定期療養に必要な具体的な教育や指導を十分に行なうことは時間的にも難しい状況でした。

そこで今回、仲本病院では、呼吸器内科の専門医として、急性期病院から紹介を受けた患者の切れ目ない呼吸器診療の継続、予防的な視点も加えた臨床呼吸器診療を行ないたいと考えています。主にCOPD、気管支喘息、睡眠時無呼吸症候群(CPAP療法)を対象に患者教育、指導、治療を行なっていきたいと思っています。



仲本病院 外観

《新入会員コーナー》

呼吸器内科外来をするには、禁煙支援なくしては診療が成り立たないため、今年2月からは、当院敷地内を禁煙とし、禁煙外来を始めました。さらに、今年6月からは呼吸器リハビリテーションを行なうため準備を進めています。

COPD診療においては、予防から、早期診断、生活指導、栄養指導、薬物治療、在宅酸素療法、呼吸リハビリテーションまで総合的に診療できる呼吸器外来を実践することを目標にしています。

2013年4月より推進している健康日本21(二次)の中で、対処すべき生活習慣病として、これまでの3疾病のがん、循環器疾患、糖尿病に加え、近年、急速に死亡が増加すると予想されているCOPDが含まれました。現在、COPDの認知度は30.1%しかありませんが、H34年までに80%まで向上させるとしていま

す。私も率先して、COPDの普及、啓発、そして防煙教育、禁煙外来を行ない、無煙環境作りに協力していきたいと思っています。

また、当院は75床の医療療養病床を有しております。医師は私を含め、内科医2名、外科医1名、整形外科医1名で診療を行なっています。病棟入院は、急性期病院、回復期病院と医療連携をとりながら、急性期治療、リハビリテーションは一段落したが、継続して入院治療を要するという患者を受け入れており、現在、人工呼吸器患者も2名入院しております。

病診連携、診々連携をスムーズにできて初めて、患者中心の医療ができます。これから益々、那覇市医師会の皆様とご協力、連携を深めて地域診療に努めたいと思います。ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



仲本病院の外来職員